

ろにあるのは、バンクーバーから約百二キロのウイスラー・マウンテン。

一番長いスロープが九・六キロ、ダウンヒル・スキーの最大落差が一三一一メートルもある、本格的な山岳スキー場だ。

ケベックのモン・トレーブラン・スキーワーク（モントリオールから北へ一四五キロ）とモン・サンアン・スキーワーク（ケベック市郊外）も六一〇メートル以上の最大落差をもつ最大規模のスキー場で、

フランス料理などフランス的雰囲気が味わえる。

スキーやホッケーがカナダのウインター・スポーツあるいは戸外娯楽のすべてでないことはいうまでもない。昔は生存域を除けば、犬ぞりは過去のものとなり、や余暇活動にとり入れられたものもある。例えば犬ぞり競争。極北のごく一部の地域を除けば、犬ぞりは過去のものとなり、モーター付きトボガンがそれに代わった。

しかしスポーツとしての犬ぞり競争は盛んだ。もちろん雪上車（スノーモビル）競争もある。

若男女を問わず一度や二度は必ずやるのがスケート。カナダが、数々の世界チャンピオンを生んだ曲

すべりを一生懸命に練習する熱心なスケーターもいるが、ほとんどの人はただ楽しむため、あるいはホッケーの腕（足？）をあげるかスピード

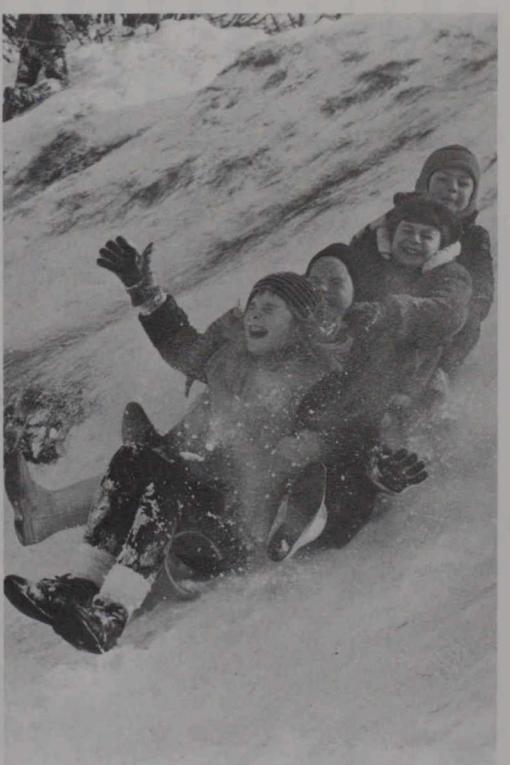
・スケート大会に参加するためだ。オタワのリドー運河は、冬になると世界最長の人工スケート場（七・二キロ）にかかり、晴れた日には一万を越す人々がスケートを楽しむ。中には運河



雪ぐつ競走

## トボガン

もともと北アメリカ北西部のインディアンが、主に食糧や衣類などを運ぶのに用いた幅広の木製ソリ。かばの木の板で作られた厚さ一センチ、幅三十センチ、長さ一メートル八十七センチぐらいのソリで、犬や人間が引いていた。最近は雪の傾斜面を滑降するスポーツあるいはレクリーションに使われることが多い（このスポーツをトボギングという）。座つて、あるいは腹ばいになつて乗り、体でバランスをとつたり、両足で操作しながらかじをとる。一九六四年のインスブルック冬季五輪から正式種目になつたりユージュと似ているが、リュージュはトボガンより幅が狭く、また仰向けに寝て滑降する。



雪深い地方で歩行用に使われる雪ぐつ。近代的な交通手段が発達するまで、幅広く利用されていた雪ぐつは、今、雪山登山や雪ぐつレースなどに取入れられ、ウインター・スポーツとして楽しめている。写真は北極冬期競技大会で走る雪ぐつ競走の選手。